

B-2. 提供施設への出動

原則的には承諾がいただけてから出動するが、ドナーの状態等によっては先に出動することもある。

1) ドクターカー準備

ドクターカーを車庫から出す。電源プラグを抜くのを忘れないようにすること。

目的の提供施設へカーナビを合わせる。

病院が新しく移転している場合にはカーナビで表示されない事がある為、注意する。チーム出発までに時間があるならば、インターネットより提供施設の周辺地図を検索する事が望ましい。

2) 機材の搬送

ドクターカーへ機材を積み込む。その際、忘れ物が無いように注意する。特にアイボックス、デルマトーム(ジンマー又はパジェット)電源、円座、バケツは注意する。

ドクターカーを使用しないときは、スーツケースへ機材を入れ準備する。

3) 出動予定時刻の連絡

適宜、家族対応 Co へ連絡し、出動時間を検討する。

腎臓提供、他の組織提供がある際は、手術時間の間が空かないように注意する。

医師やドライバーにも適宜連絡し、出動時間を伝える。

他の組織バンクへも現在の様子を伝え、出動時間を決定する。

4) 出動

出動時間決定後、人員の確保を行い、提供施設へ出動する。

ドクターカーで高速道路を使用する際には、首都高や道路公団へ乗降インターを連絡する。

適宜、家族対応 Co に到着予定時刻を伝える。

目的地周辺になったら、家族対応 Co に連絡し、ドクターカーの駐車場所等を確認する。

B-3. 提供施設到着から皮膚採取術まで

提供施設到着後は家族対応 Co の指示を仰ぎ、迅速に皮膚の採取を行う。

1) 提供施設への到着

指定された場所へドクターカーを駐車する。

2) 器材搬入

あらかじめ家族対応 Co が検討しておいた、なるべく人目につかないルートで器材を手術室に搬入する。すぐに手術室に入れなくてもあり、待機する可能性がある。待機の場合には、家族対応 Co の指示により、待機場所にて待機する。

3) 手術室への入室

施設によって入室方法が異なるため注意する。

4) 皮膚採取術

詳細についてはA-6 参照

- * Skin Bank Time Table(書式 3, P81)、Procurement Sheet(書式 5, P83)、皮膚採取時チェックリスト(書式 6, P84)の記録を忘れずに行う。
- * 採取を行っていただく医師と手技の打ち合わせを行い(資料 5, P128、資料 6, P129)、円滑に皮膚採取が行われるよう努める。
- * 終了後は忘れ物が無いよう十分注意する。

B-4. 皮膚採取終了から杏林大学到着まで

皮膚採取終了後、ドナーが手術室から退室したならば順次片付けを行う。特に、ゴミは各チームの責任のもと、持って帰る。また、忘れ物がないよう確認する。

1) 手術室退室

- ① 清掃用具をお借りし掃除し、忘れ物がないか確認し手術室から退室する。組織の採取の順によっては、皮膚の採取チームが最後まで残らないこともあるため、忘れ物がないよう十分注意する。
- ② 皮膚の組織片が残っていないよう注意すること。特に、デルマトーム刃、注射針、セッシ、クーパー、延長コードなどの物品の置忘れに注意する。
- ③ 協力いただいた看護師等にお礼を述べ、室内を確認して頂く。

2) 器材の撤収

- ① 忘れ物がない事を確認した上で、搬送したルートより器材をドクターカーへ積み込む。
- ② ゴミは人目につくようなら黒いゴミ袋に入れるなどして、目立たぬようにドクターカーに積み込む。

3) 提供施設出発

- ① 高速道路を使用する場合は連絡をいれる。(資料 11.139、資料 12.140)
- ② 適宜、メディカルコンサルタントに連絡を入れ、終了したことを伝える。

4) 杏林大学到着

- ① 器材をドクターカーから下ろす。
- ② ドクターカーを車庫へ入れる。その際、電源プラグを指しこむことを忘れないようにすること。また最後に外装、ゴミが落ちていないか等、点検すること。
- ③ 使用記録へ出勤時刻、場所等記入する。
- ④ 鍵を3次外来看護師リーダーへ返す。
- ⑤ 当直医へ戻ってきたことを伝える。
- ⑥ 庶務課へ使用許可申請書(資料9, P136)を提出する。(3次外来看護師長の印をもらうこと)

5) 皮膚の一時保存と器材片付け

- ① 皮膚は4℃の冷蔵庫に入れる。
- ② 検査のために採血した場合には、皮膚と同様に4℃の冷蔵庫へ入れる。

- ③ ゴミはダムウェーターの中に入れる。血液が付着したものが入っている場合には、赤テープで×印をつけてから捨てる。
- ④ 次のドナー情報に対応するため、デルマトームを洗浄する。また、ボールなど使用した器材を洗浄する。

B-5. ドクターカーによる走行

ドクターカーで提供病院へ向かう際に、高速道路などを使用する場合には、所定の方法にて連絡を入れる。

1) ドクターカーでの走行(資料 10, P137-138)

高速道路への連絡を行う。

乗降するインターチェンジを確認し、管轄の道路公団へ連絡する(資料 11, P139、資料 12, P140)

2) ドクターカーのガソリンについて

ガソリンは杏林大学にて決められたガソリンスタンドで入れる。原則として、皮膚採取後戻ってきた際に、ガソリンを満タンにして車庫へ入れる。

深夜の出動によりガソリンの補給が出来なかった場合には、翌日庶務課に連絡し、杏林の職員が同乗の基、ガソリンの補給を行う。

* 杏林大学病院庶務課にてドクターカー運用内規を改定している。

C. 凍結保存作業業務

C-1. 必要物品準備	245
C-2. 凍結保存試薬調整	247
C-3. 保存作業	248
C-4. パッキング	251
C-5. プログラミングフリーザーによる凍結操作	252
C-6. 必要器材準備と滅菌	254

C-1. 必要物品準備

凍結保存作業を行う前に必要物品の準備を行う。

1) クリーンベンチの準備

使用する5～10分前に70%アルコールで内部を拭き、UVを当てFUNを回し、内部を殺菌する。

2) 凍結保存試薬と物品の準備

1	GIT	1本	500ml
2	ダイゴ GF	2本	30ml/本
3	グリセリン	1本	100ml
4	カナマイシン	1アンプル	4ml
5	ペニシリン	4本	100万単位
6	ファンギゾン*	1チューブ	5ml
7	蒸留水	1本	20ml
8	カップ	2個	
9	メスシリンダー	1本	
10	シリンジ(3ml、1ml)	適宜補充	

GIT、ダイゴ GF は凍結保存されているため、あらかじめ37℃程度の温水で解凍しておく。

GITは3回まで解凍可能(一度開封したものは口が不潔にならないようパラフィルムを口に巻き、残量を明記し、凍結保存しておく。)

*ファンギゾンは分注したチューブを用意。ファンギゾンの作成法についてはC-2-1)-②を参照

3) 洗浄液準備

生理食塩水1000mlにカナマイシン1アンプル(4ml)を加えたものを、採皮部位数にあわせて作成する。500mlでボール1個分であるため、採皮部位数が4つであれば6本洗浄液を準備する。使用開始まで4℃の冷蔵庫の中に入れておく。

4) 物品の準備

数量が決まっているもの

1	機械台カバー	1枚
2	ボール	3個
3	皮膚裁断台	1枚

4	セッシ	3本
5	クーパー	1本
6	定規	1本
7	カップ(保存液用)	2個
8	シリンジ(10ml)	1本
9	滅菌ガーゼ	ボールと一緒に滅菌したものを使用
10	細菌検査用カップ	採皮部位数に合わせて用意

適宜追加するもの

- ① アダプティック
- ② フリージングバック
- ③ アルミパック

洗浄後の汚水を捨てるバケツも用意する

C-2. 凍結保存試薬調整

皮膚の凍結保存を行う為の保存試薬の調整を行う。

1) 試薬の調整

クリーンベンチ内で行う

- ① GIT; 140ml+ダイゴ GF; 30ml+グリセリン; 30ml=200ml をメスシリンダーで計量する
- ② カナマイシン; 0.8ml (1mg/ml)+ペニシリン; 2ml (200 万単位)+ファンギゾン; 0.1ml (2.5 μ g/ml)を加える
 - ・ カナマイシンはアンプル状のものをそのまま加える
 - ・ ペニシリン(100 万単位)は 1ml の蒸留水で溶かし加える
 - ・ ファンギゾンは 50mg の粉末を 10ml の蒸留水に溶かし 5mg/ml の溶液を作成し、0.5ml ずつ滅菌チューブに分注しておいたものを加える。分注したファンギゾンは凍結保存しておく。

①+②を2カップ作成し、4℃の冷蔵庫へ入れておく。

採皮部位が少ない場合、保存液の作成は 1 つでも十分である。適宜、量は判断する。

C-3. 保存作業

凍結保存の物品及び、保存試薬の調整が終了したら、順次クリーンベンチの準備を行い、保存作業を始める。

1) クリーンベンチ内の準備

テクニシャン 1 名が滅菌ガウン・滅菌手袋をし、清潔状態となり、外回り 1 名が物品を開封し、テクニシャンへと渡す。

物品はすべて滅菌状態であり、テクニシャンも清潔であるため、不潔にならないよう注意しながら物品を渡す。

- ① テクニシャンは、外回りに出してもらった機械台カバーをクリーンベンチ内に敷く。
- ② C-1-4)で準備した物品をその上に置く。

2) 保存作業

- ① カップ2つにC-2-2)で作成した1つの凍結保存液をわけていれる
- ② ボールの中にC-1-3)で準備した洗浄液を入れる。
- ③ 冷蔵庫から一つの部位のカップを取り出し、カップ内の一時保存液を捨て、皮膚をボールへ移す。皮膚を落とさないよう注意する。
- ④ 洗浄液でボール毎に約 20 回ゆすぎ、ボールを変えて計 3 回十分洗浄する。
- ⑤ 3 個目のボールでよく洗ったら、皮膚を軽くしぼり、凍結保存液に 5~10 分湿潤する。
- ⑥ 皮膚裁断台にアダプティックロールを伸ばし、その上に皮膚を丁寧に広げる。採取した皮膚に毛が付着している場合には、出来るだけ除去することが望ましい。
- ⑦ 大きさが7×15cm(約 100cm²=1単位(U))になるようにカットする。規定のサイズ(100 cm²)に満たないものに関しては面積を記録し、「小」とする。凍結皮膚保存表(書式 13, P94)に面積を書き込んでおく。
- ⑧ 3 つ折りに皮膚をたたみ、フリージングパック内に皮膚を入れ、乾燥させないように 1~2ml の凍結保存液を加える。「小」のものはパックの一片を切り、別にパックする。この際、パックシーラーでの脱気をしやすくするため、皮膚をどちらかの端に寄せておく。
- ⑨ 部位ごとに皮膚小片を採取し、細菌検査を行うためにカップに移す。
- ⑩ 極小の皮膚をサンプルとして別のパックに入れる。部位がわかるように部位毎に角をカットしておく。

- ⑪ 一つの部位が終わったら、アルミパックに 5 枚一組になるようにフリージングパックをいれる。5 枚にならない場合には適宜、パックに入れる。「小」は別にアルミパックにいれ、総面積を凍結皮膚保存表に記載する。
- ⑫ アルミパックを邪魔にならないようにクリーンベンチの端に置き、「小」のアルミパックは端を折って混同しないようにする。
- ⑬ ボールの中の洗浄液を捨て、次の部位へと移る
- ⑭ ②～⑫の作業を部位毎に行う
- ⑮ 物品(アダプティックロール、フリージングパック、アルミパック)は適宜追加する。凍結保存液についても適宜追加する。

保存する皮膚の部位の順番は、比較的汚染が少ないと思われる上の部位から行い、臀部は最後に行うように配慮すること。

また、「背中・臀部」など、2 つの部位が 1 つにまとめられている場合には、上の部位が含まれているものから保存する。

- (例) 背中 → 前大腿 → 後大腿 → 臀部 (通常)
- 背中・臀部 → 大腿
- 背中 → 臀部・大腿
- 背中・臀部 → 前大腿 → 後大腿
- 背中 → 前大腿 → 臀部・後大腿

3) 凍結皮膚保存表の記載事項

- ① 採皮日時による JSBN LOT No.
- ② 各採皮部位の採皮枚数・単位及び皮膚の状態
- ③ 皮膚の合計枚数・単位(1 単位 = 100cm²)
- ④ 「小」の皮膚の面積及び総面積
- ⑤ 1パックごとの皮膚の入り数
- ⑥ 保存作業時間(折りたたみの開始から、折りたたみ終了まで)
- ⑦ プログラミングフリーザー開始時間及び終了時間
- ⑧ 保存タンク No.及びラックの色
- ⑨ 保存記録者の書名

4) 細菌検査

- ① 細菌の混入が無いように注意し、カップに小片を入れること。
- ② 細菌検査用に採取した皮膚の小片入りのカップに LOT、部位を記載する
- ③ LOTは西暦の下 2 桁、提供月、月の提供番号を記載
- ④ 外注検査受付へ伝票とともに渡す。午後 5 時までの受付となっているため、間に合わない場合には 4℃で保存し、翌日の朝に一番で提出する。

5) 血液検体

- ① 血液は 4℃に保存し、外注受付時間内(9:00～17:00)にスキンバンク検査項目に従い、伝票(資料3. P125)とともに提出する。
- ② 基本的には提供施設にて未検査の項目および感染症に関して行う。また、検査結果が古い場合には適宜必要な項目について検査を行う。血清が少ない場合には検査項目に優先順位をつける場合もある。

C-4. パッキング

皮膚の保存作業が終わりに近づいたら、パックシーラーにてパッキングを開始する。

1) クリーンベンチの準備

使用する 5～10 分前にクリーンベンチ内をアルコールで消毒し、UV を当て内部を殺菌する。

2) パックシーラーの準備

パックシーラーの滅菌袋の外袋を取る。紙袋内は滅菌状態なので不潔では触らないこと。滅菌手袋を装着し、パックシーラーを包んでいるドレープをはずし、電源を入れる。

3) パッキング

- ① 熱線のメモリを調節する(フリージングパック 3、アルミパック 7 程度)
- ② パックシーラーのレバーを脱気に下げ、ノズルを出す
- ③ フリージングパックを開口しノズルの中に入れ、脱気開始ボタンを押し脱気を行う
- ④ 真空にした後、レバーをシールに上げテーブルを下げる。加熱ボタンが消えるまでテーブルを下げ、シールする。密封されているか十分確認する。
- ⑤ フリージングパックを 5 枚一組にしてアルミパックに入れる。同様に脱気した後に、真空にする。熱線にて完全密封する。5 枚に満たない場合にはその枚数でパックする。脱気が不十分であると凍結したときに破裂してしまうため注意する。密封されているか十分確認する。

4) ナンバリング

- ① アルミパックにスキンバンク LOT No.を書き、部位と枚数を記載する。「小」で面積を測定した場合にはその面積も記載する。
- ② 凍結保存を開始するまで、アルミケースにいれ冷蔵庫にいれておく。
- ③ 凍結皮膚保存表とパックを照らし合わせて、誤りがないか確認すること。確認は必ず 2 名以上で行う事。

* 皮膚は凍結保存する事により、半永久的に保存できるが、アルミパックの耐用年数は 5 年と定めている。

C-5. プログラミングフリーザーによる凍結操作

パッキングが全て終了し、2名以上で保存パックの確認を行った後に、プログラミングフリーザーによる凍結操作を始める。

1) プログラミングフリーザーの準備

① 液体窒素の準備

ユニオンメディカル(内線*354)へ連絡し液体窒素を25L依頼する。保存作業に間に合うように依頼する。

② 電源

フリーザー本体、コントローラー背面パネル、レコーダーの電源を入れる。

③ 側温プローベの取り付け

プログラミングフリーザー内のケースにアルミケースを入れ、その中の一つ(真中辺りが良い)のアルミケース内のパックにフリージングチャンパーの側温プローベを取りつける。

④ レコーダーの0点補正

ペンのカバーをはずす。

コントローラーパネルの SAMP を押す→ -180°C

CHAM を押す→ 0°C

⑤ 液体窒素タンクの準備

昇圧バルブを2~3回まわして開け、内圧が $1\sim 1.5\text{kg/cm}^2$ になるように調整し、安定していたら閉める。

液流出バルブを全開にする。

2) プログラミングフリーザーの運転

① プログラムを「1. 1」に合わせる。

② SCAN と RUN を押すと開始されるので、凍結皮膚保存表に時間を記録しておく。

③ サンプルとチャンパーの温度差が 2°C 以内になったら、再度 RUN を押す。第1行程から第2行程へ進む。

④ 凍結が終了したら、アラームが鳴るので、再度 RUN を押す。

3) プログラミングフリーザーの終了

① サンプルを取り出し、保存タンクの中に入れる。

② チャンパーの蓋を閉め、液流出バルブを閉じる。

③ WARM を押す。

- ④ アラームが鳴ったら、再度 WARM を押す。
- ⑤ 機器の電源を切り、レコーダー用紙を切り取る。ペンにカバーをつける。
- ⑥ 液体窒素のバルブを閉める。

4) 保存タンクへの移動

プログラミングフリーザーによる凍結が終了したら、保存タンクへアルミケース毎、移動させ保存する。

凍結皮膚保存表に保存したタンク No. とラックの色を記録しておくこと。

C-6. 必要器材準備と滅菌

採皮終了後に、器材の使用数及び残数を確認し、次の情報に備えて物品の準備を行う。また、滅菌物の期限に注意し、物品が足りないようならば滅菌する。

1) 器材の準備

使用した物品数を確認し、「採皮物品チェックリスト」(書式 14, P95-96)に従い、補充を行う。

在庫が残り少なくなったら、注文する。

常に在庫をチェックし、不足物品がないように注意する。

2) 滅菌

再使用する物品については、滅菌手順(資料 13, P141)に則り、オートクレーブ滅菌の物は専用の移送ボックスへ入れ、プラズマ滅菌の物はビニール袋に入れる。洗浄を行う必要はない。

ディスポ製品(ガーゼ、カップ等)は在庫があるかチェックし滅菌に出す。

滅菌切れにも注意すること。また、滅菌の期限をカレンダーに記載し、常にチェックを行う。

特に、院内のみで使用する腎臓摘出セット、眼球摘出セット、骨採取セットの滅菌期限に気を付ける。

- ・ オートクレーブ滅菌:ステンレス素材(セッシン、クーパー、定規など)など
- ・ プラズマ滅菌:プラスチック素材(カップ、ボール、パックなど)、デルマトーム
- ・ EOG 滅菌(外注):パックシーラー

3) フリージングパックの作成

フリージングパックは大きいパックをパックシーラーで端を密着させながら、1 つの大きなものから 8 個のパックを作成する。

4) 物品の注文

在庫が残り少なくなったら、適宜発注を行う(表 5, P165)。

5) 備品の点検

備品リスト(表 6, P166)の備品が故障等ないように適宜点検を行う。

D. 供給業務

D-1. レシピエント情報受信	256
D-2. 供給	257
D-3. 搬送用タンク返却	260
D-4. 副作用、有害事象の検討	261

D-1. レシピエント情報受信

JSBN 加入施設、または未加入の広範囲熱傷を扱う施設より JSBN へ皮膚供給の依頼が入るので、レシピエント情報を取得し、皮膚出庫の可否の確認を行う。

1) 移植施設からの連絡

- ① 重度の広範囲熱傷を扱う専門施設からアログラフト供給依頼が入る。
- ② 年齢、熱傷面積、受傷日、手術日、希望枚数、FAX先番号などをおおまかに聞く。
- ③ アログラフトの実物大を記載してあるFAX送信用紙(書式 16, P98)と Recipient Information Sheet(書式 17, P99)を一緒に送り、詳しい情報を記入後、返送してもらう。
- ④ 当日に発送をする場合は、16 時がFAX返信のリミットであることを伝える。

2) 供給の可否の確認

- ① 返信された用紙を代表もしくはメディカルコンサルタントへ直接見せ、供給が可能か確認する。代表、メディカルコンサルタントが不在の場合は電話で確認を行う。JSBN 参加施設以外の場合は必ず代表へ確認を取ること。
- ② 供給の可否については、原則として日本熱傷学会スキンバンク委員会にて作成された「日本熱傷学会スキンバンクマニュアル 1999 年度版」(参考文献)に則り、重症熱傷症例(BI10 以上又は深達性Ⅱ度熱傷以上で 15%以上の広範囲熱傷)を対象とする。スキンバンクマニュアルの基準を満たさない場合には、必ず代表またはメディカルコンサルタントへ連絡し、出庫の可否を確認する。
- ③ 了承が得られた後に、同種皮膚の出庫準備に入る。適宜、移植施設へ連絡し、Recipient Information Sheet の記載事項について確認する。到着場所、到着日時、供給枚数(最大 15 単位)に注意する。

* JSBN 加入施設以外からの依頼は、初回は人道的立場から供給を行うが、入会を前提とすることを伝える。希望する場合には、入会申込書(資料 14-18, P142-153)を一緒に送付する。

D-2. 供給

レシピエント情報の確認をし、皮膚の供給が可能と判断された後に、皮膚出庫準備を行う。

1) 搬送用タンクの準備

- ① 保存室の前に搬送用タンクを準備する
- ② ユニオンメディカル(内線*354)へ連絡し、液体窒素を10L依頼する(午前中が望ましい)。

2) 添付書類準備

- ① 皮膚の選択
皮膚在庫表(表7, P166)から枚数等に応じ、供給するアログラフトを選ぶ。
在庫表にわかるようにチェックし、後でPowerMac G4へ入力する。
- ② 選んだアログラフト LOT の「Donor Information Sheet(書式 11, P92)」
「Donor Skin Preservation Sheet(書式 12, P93)」をドナーファイルからコピーし、サインをする。
- ③ 手紙の作成
主治医への手紙を作成する。
PowerMac G4のJSBNフォルダを開く。
お手紙フォルダのタンクフォルダを開き、該当西暦年度のフォルダを開く。
類似の手紙があるので必要箇所を訂正し、別名で保存し1部印刷する。
- ④ 必要書類の準備
送付書類リスト(書式 18, P100)に沿って、植皮承諾書(書式 19, P101)、
植皮説明書(書式 20, P102)、送付物品リスト(書式 21, P103)、 SHIPPINGの
クオリティーに関する調査表(書式 22, P104)、Allograft Result Report(書
式 23, P105)、ドライシッパー(CDM)の搬送に関する安全証明書(書式 24,
P106)、FAX送付のお願い(書式 26, P108)をキャビネットから1部取り出す。
残り少なくなったらコピーし、補充する。
- ⑤ 皮膚受領書(書式 25, P107)に供給するアログラフトの LOT No、部位、枚数
を記入しサインする。移植施設側の受領書をコピーしておく。
- ⑥ 宅配便の伝票(資料 19, P154)を記入する。タンク返却のために JSBN 参加
施設の場合は着払い伝票、それ以外の施設へは普通の伝票を添付する。返
送先の住所を記載し、午前中指定にしておく。また、備考欄に「天地無用」もし
くは「必ず立てたまま運んでください」と記載する。

- ⑦ Allograft Result Report 返送用封筒(資料 20, P155)を用意する。80 円切手を貼り、JSBN の宛名シールを貼る
- ⑧ 送付書類リスト(書式 18, P100)を書類の頭に付け、再度ダブルチェックを行い 2 名のサインをする。
- ⑨ ②～⑧までの書類をクリアファイルに入れる。

3) レシピエントファイルの作成

レシピエント No.の付け方

Re	—	a	—	b
↑		↑		↑
Recipient	—	西暦下 2 桁 a 年	—	b 番目の Recipient

- ① レシピエント No.をつけ、表紙(書式 27, P109)に必要事項を記入する。
- ② レシピエントファイルに必要書類をファイルし、表紙にサインする。
- ③ Follow up Box 内の書類を作成する。(資料 21, P156、資料 22, P157-158)
- ④ 同一のレシピエントの際は同じレシピエント No.を付ける。

4) 皮膚供給

すべての書類の準備が完了し搬送用タンクの準備が整ったら、保存タンクから搬送用タンクにアログラフトを移す。

- ① 該当するアログラフトの LOT が保存されているタンクの鍵を開け、蓋を開ける。その際に、タンク温度管理版にて蓋を開けた時間を確認する。
- ② 保存ラックに付着している液体窒素を十分にタンク内で落とし、該当するラックを外へ取り出す。温度センサに注意すること。
- ③ ラック内からアルミケースを取り出し、アルミパックを取り出す。取り出す際に、アルミパックの破損が生じる可能性がある為、アルミケースの取扱いには注意する。
- ④ 供給するアログラフトのアルミパックの LOT No、部位、枚数をダブルチェックし、アルミケースに入れさらに搬送用ラックに入れたものを搬送用タンクへ移す。
- ⑤ ラックを保存タンクに戻し、蓋を閉め、鍵をかける。開けた時と同様に、タンク温度管理版にて蓋を閉めた時間を確認する。
- ⑥ 搬送用タンクに手袋が入っているか確かめ、書類を添付し、外箱の封をする。
- ⑦ 伝票を外箱に貼り付け、ヤマト運輸へ集荷の依頼を行う。

ヤマト運輸集配センター 0422-01-9625

翌日に到着させる場合(本州)は 18 時までにヤマト運輸へ連絡を入れる